

「第3次雲南市食育推進計画(案)」に関するパブリックコメント(意見募集)の結果について

雲南市では令和2年度から令和6年度までを期間とする「第3次雲南市食育推進計画」の策定作業を進めています。

この計画は、食育基本法第18条第1項に基づく市町村食育推進計画として位置づけ、雲南市の食育を総合的、具体的に推進するために策定するものです。

本計画について、下記の通りパブリックコメント(意見募集)を実施しました。

1. 意見募集した計画

雲南市第3次食育推進計画

2. 意見募集期間

令和2年1月14日(火)～令和2年2月7日(金)

3. 意見提出人数

2人

4. 意見提出件数

4件

5. お寄せいただいたご意見・ご提案と雲南市の考え方

No.	提出されたご意見・ご提案	ご意見・ご提案に対する雲南市の考え方
1	<p>○重点テーマ:「学校給食」を通じた「食育の環」の拡大について</p> <p>[地域食文化・伝統]「様々な情報を広く伝えるツール」「市民一人ひとりの食育の実践につながる可能性を持っている」と表現されております。</p> <p>中央学校給食センターのある斐伊小学校においては、全国に先駆けて昭和3年にみそ汁給食が開始され、昭和7年には給食炊事室が建築され、全国で初めての学校完全給食が開始され、「斐伊のみそ汁学校」と呼ばれ全国に大きな反響を呼び、視察が絶えなかったと書かれており、食育計画に記し市民の共通認識への周知と深化を図ることが必要と考える。</p>	<p>学校給食については、その大切さはもとより、雲南市の食の幸として、歴史を広く市民の皆様に伝えることも食育の推進に必要だと考えます。計画書に記載を加えるとともに、情報発信に努めます。</p>
2	<p>身近な旬の食材を使って伝承されてきた郷土料理、四季折々の行事に寄せての行事食です</p>	<p>伝統食や行事食などの食文化を後世に引き継いでいくことは、食育を推進する上で重要だと</p>

	<p>が、母親はもちろん、祖父・祖母も仕事を持っている昨今、日々忙しい中で市場に氾らんしている便利な食材に手が出ることも多く、若い人には敬遠されがちな郷土食、行事食は失われつつあります。しかし、子どもにとってはかえって新鮮で、ワクワクする部分もあるかと思います。学童期から高齢期まで、年齢を問わず集える食育活動やイベントをさらに増やしてほしいと思います。</p>	<p>考えております。そうした中、地域においては、行事食・郷土食づくり等の様々な体験活動が既に多く行われており、これらの活動に参加することも食育の一環であるとの意識を促す視点も、今回計画に盛り込んだところです。今後も、食文化の継承に繋がる取り組みを推進していきます。</p>
3	<p>最近、野菜作り・米作りを学校ですることも多くなりすばらしいことだと思います。学校給食への地場産利用率は野菜が40%近くのようなのですが、子どもたちに伝わっているのでしょうか。給食時に、当日の食材の産地や、できれば生産者を紹介して欲しいと思います。</p>	<p>各学校において、校内放送などを通じ、当日の食材の産地を紹介する取り組みを行っています。また、給食センターが年数回発行する「食育だより」の中では、給食野菜生産者の紹介も行っています。このような取り組みを今後も継続するとともに、広く市民の皆様にも知っていただけるよう、取り組みを進めていきます。</p>
4	<p>「食育あいうえお」はとてもわかりやすく、楽しくていいものなので、広く市民の目に触れるといいなと思います。食育推進を一次、二次と実施されましたが、関係者以外の認知度は低いと思います。ホームページやフェイスブックを利用できない人への情報発信もお願いします。広報誌やポスター、チラシなど、高齢者にも手軽に目に触れる方法で発信して欲しいと思います。</p>	<p>食育の認知度や、雲南市の食の良さを感じる割合は、前回調査時より改善した世代もありますが、逆に悪化した世代もありました。様々な媒体を用い、広く情報発信に努めるとともに、世代ごとに食に係る必要な情報は異なることから、世代別に適した内容を発信するなど、工夫を凝らしながら情報発信を強化していきます。</p>